



女神山

町の西部に連なる七つの尾根、七ツ森の南端に位置する女神山は、標高五九九mの美しい山で、養蚕機織の祖、小手姫の伝説が伝わる聖なる山として信仰を集めています。

● 女神山

小手郷と呼ばれ、養蚕機織の発祥の地と知られた伊達郡南部。中世には、早くから土豪を中心とした集落があり、現在の市街地周辺は、広瀬川をはさんで相対する東西の山上に、月見館と殿上館がおかれていました。中世から近世にかけて、この地は東西南北の交通路線が交差する要衝となっており、古来から絹の行き交う道の中心として、大きな役割を果たしてきたのです。



薬師如来像

薬師寺は、文治五年(一一八九年)源頼朝の奥州進出に先立つ内紛で死んだ、平泉藤原忠衡の妻小笹が、亡き夫の冥福を祈るために薬師如来像を奉納し、信仰生活に入ったとされる寺です。蓮の台座に立つ四〇cmあまりの薬師如来像は、本町では最古の仏像です。

● 薬師如来像

● 岳林寺十六羅漢

元龜三年(一五七二年)

開山の曹洞宗の名刹東照山岳林寺の山門に、石造の十六羅漢があります。数百年もの間、周囲の老松に守られてきたもので、天明年間(一七八〇年代)の作と伝えられています。



● 侍墓地と天平陣屋跡

藩政時代、九州三池藩より移封されて陣屋を開き、下手渡藩一万石を治めた立花氏の菩提寺・耕雲寺の境内にある立花種周・種善・種温三代の墓石と墓標。二代藩主種温は、天保の飢饉でも領内から餓死者を出さず、名君と慕われました。また、当時の陣屋は、戊辰戦争で焼き払われてしまいましたが、のちに懐古之碑が建てられました。



侍墓地

● 下神山磨崖仏

町を東西に走る布川のはとりに、不動堂脇の岩肌に三十四体の観音像が刻まれています。半肉彫りの観音像は、台座に彫られた蓮華などの細工や享保八年葵卯の年号がかすかに読みとれますが、作者は明らかではありません。



下神山磨崖仏